

第5回 気づきのレベルアップ

2006年11月20日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

気づきには2通りある

工場や事務所で様々な取り組みが行われおり、その取り組みを支援することが私の主な仕事です。

そんな私が常日頃から感じているのは、その取り組みの根底を支えるためには「気づきレベル」の向上が欠かせませんが、それに対する取り組みが出来ていない企業が少なくないということです。

職場の人たちの気づきレベルが上がっていないのに、高い品質を求めて改善しても所詮その改善は一時しのぎにしかありません。

最近はこの「気づきレベル」を向上させることが、どこの企業でも急務になってきているように思います。

そこで、皆さんは「気づき」といっても2通りあるのをご存知でしょうか。

その2種類について、以下に述べたいと思います。

一つ目の「気づき」は、「守りの気づき」というもので、状況を悪化させてしまった原因となる物事に対して気づくこと、またはまだ悪化してないがこれから悪化しそうだという物事に対して気づくことです。

この気づきは、「眼力」や「洞察力」といった言葉で置き換えることができます。

① 「やばい！」「まずい！」「これは！」「(しかめっ面で)んっ！」
に代表される気づき…………… 守りの気づき

㉔ 以前の良い状態に戻すための気づき

㉕ 今の状態を下げない気づき

図解



2つ目は、「攻めの気づき」というもので、現状の作業や設備には欠陥が見つからないが、こうすればもっと良くなるという類の「気づき」です。

この「気づき」は「発想力」といった言葉で置き換えることができます。

- ② 「あっ、そうか！」「そういえば！」「ということは！」
に代表される「気づき」…………… **攻めの気づき**

今の状態をもっと良くするための気づき

図解



この両方を伸ばしていくことが、現場力や改善力を高めていく上で欠かせません。
このそれぞれの気づきについての詳細については次回以降お伝えします。

以上